

ます。と挨拶され、法要が終
わり、檀信徒会館へ移動し

お会式法要

爽やかな秋晴れの十月十
三日、本堂改修後二回目の
法要「宗祖日蓮大聖人報恩
お会式法要」。「山鹿城主・
山鹿重安公一族郎党供養法
要」が行われました。しか
し、農繁期真つただ中のた
め例年お参りの方が少なく、
今年も同様でした。

竹迫上人の法話

法要に先立ち、植木町妙
正寺副住職「竹迫裕恭上人」
の法話がありました。
御太鼓とお題目で竹迫上人
をお迎えし、住職が竹迫上
人を紹介し、「お説教を聞く
ことも聞法の大切な修行で
す。」と挨拶され、上人と参
詣者でお題目を三唱して法

ておときをいたただかれまし
た。(王) (編集委員・谷)

山鹿城主供養



竹迫上人を紹介する住職

話を始められました。法話を
はじめられました。法話を

一生成仏抄を拝読

高祖日蓮大聖人御妙判一
生成仏抄に示してのたまわ
く、『又衆生の心けがるれば
土もけがれ、心清ければ土も
清しとて、浄土と云ひ穢土と

云うも土に二の隔てなし。只
我等が心の善悪によると見え
たり。衆生と云うも仏と云う
も亦此くの如し。迷う時は衆
生と名づけ、悟る時をば仏と
名づけたり。譬えば闇鏡も磨
きぬれば玉と見ゆるが如し。
只今も一念無明の迷心は磨か
ざる鏡なり。是を磨かば必ず
法性真如の明鏡と成るべし。
深く信心を発して日夜朝暮に
又懈らず磨くべし。何様にし
てか磨くべき、只南無妙法蓮
華経と唱へたてまつるを是を
みがくとは云うなり。』と拝
読されました。

値引き商品購入

自己紹介、時候の挨拶、圓
頓寺の本堂が檀信徒の尽力
で立派に改修された事への
お慶びを話されて、妙正寺
の近所に開店したコンビへ
娘さんといき、つい値引き
商品を購入したらお母さん

平成十七年度～平成三十四年度

りっしょうあんこく
立正安国

だいもくけちえん
お題目結縁運動

日蓮宗



マルカメ醤油・味噌
灯笼しょうじょう

山鹿市中1000-2
☎ 44-3131

も同じく購入されていた。などユーモアを交えながら進められました。

菩薩様の心

数年前、枕経から午前四時三十分頃お寺に帰ったら新聞配達の人が、両手で新聞を渡されました。また、別の日窓越しに見る機会があったが、その時も両手でポストに入れられた。読む人の為に思いやりをもって両手に入れられた心が菩薩様の心です。人は心にいい部分と悪い部分を持っています。いい部分を育てながら行動に移られた。菩薩様の精神です。

仏教の根幹・因果の道理

皆様は仏教徒です。仏の教えは何でしょうか。大変難しいところです。仏教の根幹は「因果の道理」で成り立っています。原因があつ

て結果があります。「善因善果」「悪因悪果」。悪い種があると悪い結果がもたらされます。自分が蒔いた種は自分が刈り取らなければなりません。「自因自果」です。因果の道理の結論は悪を廃して善を修める。「廃悪修善」です。お釈迦様はたくさん善を解かれましたが、六つにまとめられたのが「六波羅蜜」です。



六波羅蜜

六波羅蜜とは、①布施(ふせ) ②思いやりの心、奉仕する生活) 【反対】けち、③持戒(じかい) ④決まりを守

る、生活を正す) 【反対】約束を破る) ③忍辱(にんじやく) ④苦しみに耐え、正しい道を開く) 【反対】短期) ④精進(しやうじん) たゆまぬ努力、続ける心) 【反対】なまくら) ⑤禅定(ぜんじやう) ⑥心静かな落着き、集中する心) 【反対】落着きがない) ⑥智慧(ちえ) ⑦仏道に目覚め、正しい教えを学ぶ) 【反対】ねたむ、うらむ) ⑦反対ばかりの人は嫌われます。六波羅蜜を実践している人は光る人であり、人気者です。

実践修行・八正道

六波羅蜜に似た教えがあります。「八正道」です。悟りに至る八つの実践修行です。①正見(しやうけん) ②正しくありのままに見る) ②正思惟(しやうしゆい) ③正しく考え意志を持つ) ③正

J A 鹿本(株)鹿本広域福祉センター総合葬祭会館 やすらぎの里

天寿苑

〒861-0535 熊本県山鹿市南島1246(山鹿大橋そば)

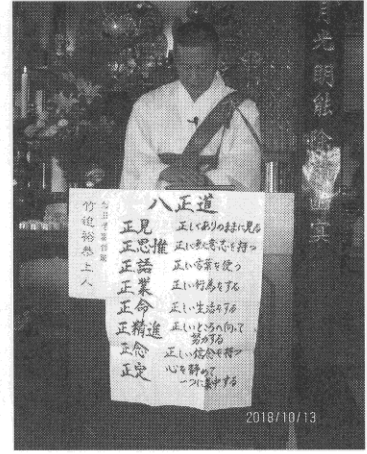
TEL. 0968-44-0983

葬儀場・法事会館を併設した総合葬祭会館です

六波羅蜜の①のお布施は、封筒に入れたものをお布施と思いますが、お布施は三種類あります。①財施。②法施。③無畏施(むいせ)です。

お布施は三種類

語(しようご)正しい言葉を使う)、④正業(しようご)正しい行為をする)、⑤正命(しようみよう)正しい生活をする)、⑥正精進(しようじん)正しいところへ向って努力する)、⑦正念(しようねん)正しい信念を持つ)、⑧正定(しようじよう)心を静めて一つに集中する)。



金銭、お米などそれ以外の財施は分かれず。私がお話させていたたくのも法を施す、法施です。皆様が今日の話を家族の方、近隣の方にアドバイスするのも法施でございます。無畏施はお金や物が無くても温かい眼差しや笑顔、何かのお手伝いもお布施です。

無財の七施

無財の七施と聞いたことありませんか。施すべき財が無く、教える智慧も無いという人もいらつしやるでしょう。お釈迦様は、財力や智慧が無くても七つの施しが出来ることを示されています。①身施(しんせ) ボランティアです。②心施(しんせ)共に泣き、共に喜び、共に生きる。③慈眼施(じがんせ)優しい眼差しです。④和顔施

大切なのは布施をするとき、海外の作家の方の門の前に、物乞いをする人が立ち

布施をするときの心



法話を聴く檀信徒

(わがんせ)穏やかな顔で回りを和やかな気持ちにする。⑤愛語施(あいごせ)優しい心温まる言葉をかける。⑥壯座施(しようざ)席を譲ったりする。⑦房舎施(ぼうじゃせ)傘を貸したり、軒先で雨宿りをさせてあげたりすること

建設業
砂利採取販売業
コンクリート二次製品製造販売

有限会社 **阿蘇品組**

代表取締役 阿蘇品 豊

山鹿市中483
電話(0968)44-7815

電気設備工事設計施工

有限会社 **中原電機商会**

熊本県山鹿市栄町298
電話(0968)43-2087

ました。作家もその日食べるのがやつとの生活でした。何かあげたいと思ったがあげるものがありません。物乞いの手を握って「よー兄弟」と言われました。「私もあなたと一緒にだよ」と言われたそうです。あとから物乞いの方は、「永い間物乞いをしてきたが、あの時以上に嬉しかったことは無かった」と述べられたそうです。作家の方は何を施したのでしょうか。何も無くとも心からの親切が、どんなに周りを明るく和やかにするか分かりません。逆にお金をやったとしても投げつけて出て行けと言われたら、嬉しくはありません。

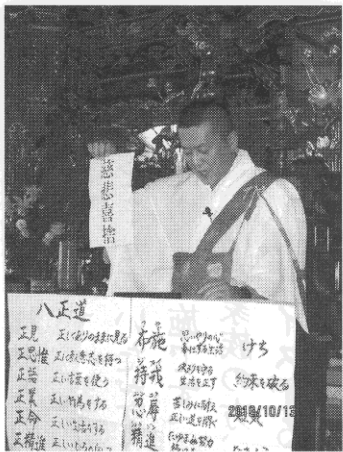
三輪空

これだけ親切にしたからこれくらい見返りがあるのではないか。と思ったら腹

が立って不幸になります。お釈迦様は「三輪空」といつて、他人に親切にした時はこの三つ、施者（○○が）、受者（○○に）、施物（○○を）を忘れなさいと教えられました。このような心掛けで布施をしてこそ本当の布施です。

慈悲喜捨

六波羅蜜は、皆様が菩薩様になるために重要な修行のひとつです。菩薩様に近づく大切な教えが「慈悲喜捨」です。あらゆる人に深い友愛の心を限りなく配りいつくしむ。あらゆる人と苦



しみを共にする。人の喜びを見て自ら喜ぶ心をおこす。いずれにも偏らない平常の心をおこす。六波羅蜜と慈悲喜捨の心が菩薩様に近づく教えです。

共命鳥の教え

靈山浄土にいる、体は一つだが頭が二つで美しい声でなく共命鳥の言い伝えに触れられ、自分が生きるためには相手も生きるようにしなければならぬ。共に生きるです。お互いに相手を尊敬してこそ共に成長していきます。菩薩に近づきます。

一生成仏抄の意味は

冒頭拝読しました一生成仏抄は、「この世を仏の世界とするか、苦しみの多い世界にするかは、私たちの心の持ち次第です。人の心は磨かれていない鏡のよう



地域に密着した熊本の保険代理店

アップワード エスト保険

取扱生命保険会社

- アクサ生命
- NKSJひまわり生命
- アメリカンファミリー生命
- 大同生命
- メットライフ生命
- 東京海上日動あんしん生命
- オリックス生命
- ソニー生命
- エヌエヌ生命

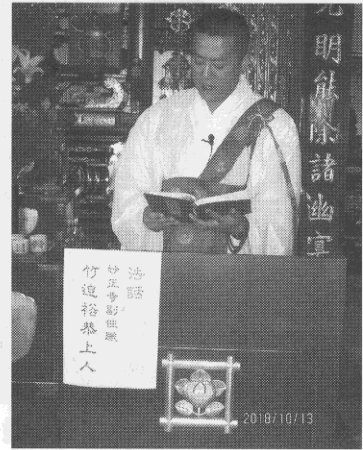
取扱損害保険会社

東京海上日動火災保険

〒862-0965 熊本市南区田井島1-3-50 ガレリア2

Tel. 096-223-8105 FAX. 096-223-8106 email:esthoken@royal.ocn.ne.jp

一生成仏抄を拝読する竹迫上人



なもので、汚れがすぐついてしまします。その汚れた鏡を磨き上げ、この世の中を浄土と住みやすい世界とするか、苦しみの多い世界とするかは、あなたの方の心次第である。心を磨くには南無妙法蓮華経とお題目を一心に唱えなくてはならない』という意味の、大聖人のお言葉です。人々は心の中に仏の心と邪心をもっています。一人一人が心を磨き、物事の本質内面を見つめなおし、苦しみも悲しみも分かち合い、相手がいるから

自分も生かされていることを、忘れてはなりません。お題目という鏡に向き合い、自分の心を映し出し、日々の生活の反省を問いかけることも大切な生き方です。

大聖人に報恩感謝を

大仏次郎さん著「日蓮」

の、大聖人御入滅の一節を読まれ、大聖人を慕う人々は、御入滅を死ととらえず、大聖人が、涅槃の霊山浄土へ赴かれる人々を導かれていく吉相としてとらえているのです。本日は確固たる信念でお題目を弘めてこられた大聖人に、報恩感謝の誠をささげるお会式です。自分出来る精一杯のお題目を唱えられまして、心の鏡を磨かれ菩薩様に近づけるよう御修行されますことを願いまして、お話を閉じさせていただきます。と法

五名の式衆でお会式

話を終わられ。聴聞の檀信徒と共にお題目三唱して、退堂されました。

休憩後、半鐘が叩かれ太鼓とお題目で導師の住職英人上人、竹迫上人、秋吉上人、福山上人、松尾上人が入堂され、お会式が奉修されました。

報恩感謝の心で焼香

住職が焼香・弘子で御宝前を清め導師席へ着座され、道場偈が始まり、婦人会役員の方による恒例の供膳奉納も行われ、読経、切散華、謹み敬つて勧請し奉る。

南無輪圓具足未曾有大曼陀羅御本尊：高祖日蓮大菩薩 本日ここに祥当第七三七遠忌：と勧請され、開経偈、方便品第二と続き、式中住職が『日蓮大聖人には報恩

印刷 盛文社 有限会社

山鹿市下町1807
TEL 0968-43-2604
FAX 0968-43-6075

生活環境に、やさしい企業

水廻りの事ならすべてOK!

TORAYA SHOKAI

合資会社 とらや商会

TEL(0968)43-2212 FAX(0968)44-5990
〒861-0532 熊本県山鹿市鹿校通一丁目3番29号

感謝の心、山鹿氏一族郎党には供養哀悼の念をもって、総代様より順に御宝前に進まれました。ご焼香賜りますようご案内申し上げます。』と案内され、栗原筆頭総代を始め参詣者で焼香し、焼香中は、如来寿量品第十六が唱和されました。



焼香する檀信徒

焼香後も如来神力品第二十一、報恩抄、など読経が続き、上人の木柩・大太鼓に合わせて「南無妙法蓮華

経・南無妙法蓮華経……』と本堂一杯に響きわたるお題目の唱題行も行われました。その後も宝塔偈などが奉修されました。



大太鼓に合わせて唱題行する檀信徒

大切なお会式法要
 住職がお会式法要、山鹿氏一族郎党の総供養、各家ご先祖秋季彼岸供養参拝に感謝、御礼を申し上げて、「お会式法要は、日蓮大聖人の御命日の法要で本年は七三七年目の遠忌法要です。」

日蓮宗の檀信徒・檀越の一番大切な法要です。大聖人のお言葉「大難は四箇度、小難は数知れず」の金言の如く、多くの困難を乗り越えられ、妙法の不惜身命の法華経弘通の御生涯が無ければ、仏法第一の妙法蓮華経の經典、その成果であるお題目にも私たちは出会うこともできませんでした。法華経・お題目の教えを受けることが出来ることは、日蓮大聖人の尊き御存在のおかげです。私たちはお会式法要を通して知恩、報恩、恩を知り恩に報いるという感謝の念をいただき、心に刻んでいかなければなりません。このような精神をもって本日当山でもお会式法要を奉行させていただきました。」と挨拶されました。

業金/寺社建築設計施工・一級建築士事務所

株式会社 玄 匠

代表取締役 高橋 健二

〒830-0102 久留米市三潞町田川1728-2

TEL 0942-65-1866 / FAX 0942-65-1867

院首が檀信徒会館整備

檀信徒会館は平成元年頃の建築で三十年が経ち、平成二十八年熊本地震で壁にひびが入り、畳も傷んだので、先代住職（院首英知上人）が私財をなげうって、壁の新調、畳を総替え、空調設備を取替、電灯もLEDに取替など整備されたことを報告され、また、院首英知上人が体調を崩されて入院されていることも報告されました。（編集委員会・注）院首英知上人は既に退院され、元気に十二月二日の大掃除の陣頭指揮をされ、八日の荒神大祭・年末総供養にも出仕されました。

筆頭総代挨拶

栗原筆頭総代が、「お会式法要にご参拝いただきましてありがとうございます。檀信徒の皆様には平素から

菩提寺興隆にご尽力いただきます。今日の話は、植木町妙正寺竹迫裕恭上人から仏教の心を皆さんに教えていただきまして、人間として共に生き、共に支えることの大切さを改めて感じたところです。気候が変わりましてので体調に気を付けられましてご尽力いただきます。

おときをいただく檀信徒



よう、お願いいたします。」と挨拶され、参詣の皆様は、整備され明るく、きれいになった檀信徒会館へ移動し

年末総供養法要・荒神大祭

て、婦人会・当番地区の方々手作りのおときをいただきました。（編集委員・谷）

この冬一番の寒さとなった十二月八日、六大法要最後の「普賢三宝荒神大祭・ご先祖年末総供養法要」が行われました。

年末総供養

大太鼓とお題目で導師の英人上人と、院首英知上人秋吉上人、福山上人、松尾上人が入堂され法要が始まりました。導師席の住職が「荒神大祭に先立ちまして、平成三十年ご先祖年末総供養を厳修いたします。」と述べ、「我此道場如帝珠、十方三宝影現中…（道場偈）」で総供養が始まり、勸請の後



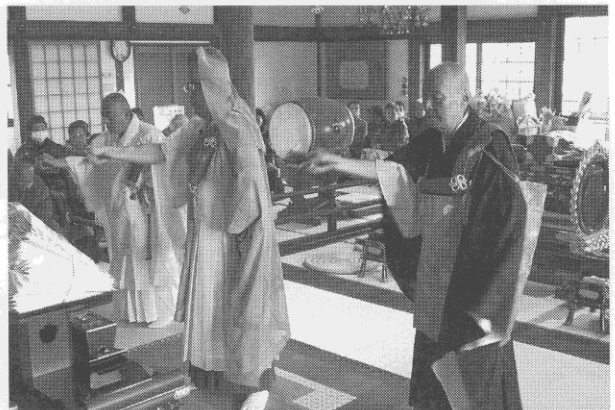
『無上甚深微妙の法は 百千万劫にも遭遇たてまつること難し…（開経偈）』、『爾時世尊 従三昧安詳而起…（方便品第二）』、『自我得仏来 所経諸劫数…（如来寿量品第十六）』、『唱え奉る妙法は 是れ三世諸仏 所証』

の境界…(運想)、『南無妙法蓮華經・南無妙法蓮華經…』と読経の唱題行も行われ、『此経難時 若暫持者…(宝塔偈)』と続き、『謹み敬つて読誦し奉る』

六乗妙法蓮華經唱え奉るお題目…本日ここに平成三十年度年末総供養に遭い合う所…と年末回向され、休憩になりました。委員会・

荒神大祭

英普賢三宝荒神大祭も導師の英人上人始め五名のお上人の出仕で厳修されました。御宝前の住職の切火・焼香導師席での勧請に続いて序品第一、方便品第二、寿量品第十六、神力品第二十一、咒陀羅第二十六と続き、御宝前におかれた「三宝荒神札」が住職らにより清められました。その後加持祈祷をお焚き上げ式、唱題行、祈



荒神札を祈祷する住職、院首、秋吉上人

願回向が行われました。

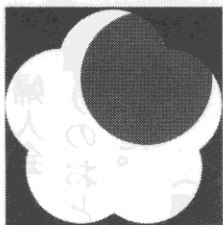
住職挨拶

住職が本日の参拝に感謝された後、「本日は初めに年末ご先祖総供養、続いて普賢三宝荒神大祭におきまして、皆様の幸せを祈るご祈祷を申し上げます。(荒神様の謂れ、ご利益を説明後)荒神様は火とかまどの神様として信仰され、神として祀られています。

年末に本年一年の息災を感謝申し上げ、新しいお札をお受けになって、来年の無病息災をお祈りするのが、普賢三宝荒神大祭法要の本義です。(院首英知上人の好意で檀信徒会館が改修されたことを報告され)、地震で倒壊した仁王像も改修して、三月の鬼子母神大祭で魂入れができればと思っています。前任職の好意に甘えての改修になります。明るくなつた本堂で明るいお寺にできるよう、住職として頑張りますので、今後ともどうぞ強い信仰心をもつて、お寺を支えていただきますよう改めてお願い申し上げます。御礼申し上げます。院首挨拶

院首挨拶

院首英知上人が、「体調不



拜む心で尊い品を…
うめたに

仏壇仏具・神社仏閣総合企画

(株)梅谷仏具店は屋号を新たに「うめたに」として再出発いたしました。今後共変わらぬご愛顧宜しくお願い申し上げます。

- 本店
〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4
TEL(092)807-0500 FAX(092)807-0501
- 川端店
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 1F
(博多リバレイン1F)
TEL(092)271-0456 FAX(092)271-0464

挨拶する院首英知上人



良のため入院を余儀なくされ、まさかという思いでありました。当山に参りまして四十七年間、住職について、そして住職として三十三年間務めを果たしてきた結果、身体がもたないという状況でございました。考えてみますとゆつくりと三ヶ月間休息の時間をいただいたというところでございます。思いがけなくも年末総供養・荒神様のお祀りに参列できたことを心から御礼申し上げます。(入院中仏祖

三宝に懺悔滅罪を祈っていたこと、思ったこと、自覚したことを述べられ、新たな命をいただいた、新たな命を努めていくという自覚変化をいたしました。私たちが唱えている「南無妙法蓮華経」は、生まれ変わる根源であります。日蓮大聖人様は、どんな苦しみがあっても、どんなにあつても生まれ変わっていく、これが信仰の第一番目の道だと教えてくださいました。それをもつて来年度に向かって共々にしっかりと、大聖人様から撫でていただけるような信者になりたいと思う次第であります。」と挨拶されました。

最後に栗原護持会会長が今年最後の法要へのお参りに御礼、護持会への協力に感謝、来年度六大法要や諸

行事へ参加いただくお願いをされ、法要が終わりました。

行事スナップ



盂蘭盆法要・献膳の儀



お会式法要・おときを準備する方々



合同大掃除・墓地清掃



合同大掃除・しめ縄作り

お寺の行事

一月十三日(日)

日蓮大聖人報恩
午前十時

初講法要

宗祖日蓮大聖人の正月の初御命日に講をおこして、御入滅をしのび、報恩のお祈りをささげる聖日です。

二月三日(日) 午前十時

開運節分析祈祷会

除災招福・星祭祈祷

一月二十日(日)

日蓮大聖人報恩
九日間・夜七時

大寒・寒修行

毎夜七時から山鹿市内を巡回します。お上人と共に修行しましょう。出来ない方はご供養しましょう。

二月十六日(土) 午前十時

宗祖降誕会

御誕生をお祝する日

三月二十八日(木) 午前十時

鬼子母神祭

彼岸会法要

百日間の大荒行を成満した、荒行僧の秘法除災除厄祈祷が行われます。

五月三日(祝日) 午前十時

立教開宗会

大黒天まつり

六月二十三日(日) 午前十時

清正公・頓写会

御入滅を偲ぶ日

発行所

山鹿城趾
湯の町てら

常明山 圓頓寺

熊本県山鹿市山鹿温泉五五

☎ 四三二二四二四(代)

☎ 四四一五二〇〇

FAX・四三二七二八二ハ

電子メール:a0115@orange.ocn.ne.jp

ホームページ:www.antonji.jp

非売品

編集・圓頓寺たより編集委員会

印刷所

山鹿市下町一八〇七

有限会社

盛文社印刷

☎ 四三二二六〇四

FAX・四三一六〇七五

メール:info-seibunsa@hyper.ocn.ne.jp